

大人の地域再発見誌

vol.11

無料!
Take Free!

こうのす

Contents

- 2 特集「**鴻巣の赤物**」
- 7 こうのす人 松本千奈美さん
- 8 おすすめイベント 吹上のさくらまつり
- 9 私の好きなこうのすの風景
- 10 こうのす歴史散歩「人形町」
- 10 編集部より

題字
執筆 第48代 勝願寺住職
藤田得三氏

表紙
写真 太刀屋の獅子頭
鴻巣市人形3-1-51

鴻巣の赤物

「ひな人形と花のまち鴻巣」は江戸時代は桐の産地でもありました。桐ダンスや家具などを作る際に出る桐のおがくずを原材料にして、赤物が作られたといわれています。古来、赤色は疱瘡（天然痘）などの病気除けや魔を除ける色と伝えられ、赤物は子供を守る物、そして縁起物として多く作られていました。現在、赤物作りは年2回の時期に集中して行われ、4月～7月に生地抜きの作業を、9月～12月に彩色と仕上げの作業を行い、出荷しています。

鴻巣で300年以上つづく伝統

江戸期より伝わる「鴻巣の赤物」は最盛期には20～30軒の業者が中山道鴻巣宿に軒を連ねていたとのこと。そして2019年（平成31年）2月現在、その製造業者は太刀屋、臼井常吉商店、臼井一郎商店の3軒のみ。製作者の高齢化が進み、今後は製作技術の伝承が最大の課題となりそうです。誇り高き郷土の重要無形民族文化財が永きにわたり残るよう、その理解を深めたいところです。



「赤」に込められた意味

「あか」の音（おん）の漢字には様々あります。紅白の紅、神社の朱、茜色の茜、茜色よりもやや暗い緋色の緋。慣用句では、真っ赤なウソ、赤の他人。これらの漢字は赤です。赤は大と火の文字の意味を合わせた会意文字。「明るい」「明らかに」の意味を表します。江戸時代、天然痘の疫病神は「あかいろ」を忌み嫌うとされ、赤刷りの錦絵が盛んに描かれました。魔除けの道具として獅子頭が赤く塗られたことも意味あることなのです。

【獅子（しし）】

- ①ライオン。からじし。
- ②左右の狛犬のうち、向かって右方の口を開いた方をいう。（広辞苑より）